

## 5. with コロナにおける観光振興の考え方

### 5-1. コロナ禍の観光を取り巻く状況

#### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大の経緯

令和元年12月に中国湖北省武漢市で確認されて以降、新型コロナウイルスは世界的に感染が拡大し、令和2年3月11日には、世界保健機構（WHO）によってこの世界的な感染拡大が「パンデミック」に至ると宣言された。世界各地では、感染拡大防止のための都市封鎖（ロックダウン）が行われ、人々の移動は大幅に制限された。

日本国内では、令和2年3月13日に新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正が行われ、新型コロナウイルスが対象に追加された。同月26日には、新型コロナウイルス感染症対策本部が設置され、その後感染者数の増加が続いたことから、政府は4月7日に東京都、大阪府をはじめとする7都道府県を対象に緊急事態宣言を発出し、4月16日には対象区域を全都道府県に拡大した。県をまたぐ不要不急の移動自粛やガイドラインの順守など感染防止対策の徹底等が呼びかけられ、外出や渡航に制限がかけられた。

緊急事態宣言を受けて新規感染者数はいったん減少傾向を見せ、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る「GO TO トラベル事業」等が運用されるなど、行動制限に対する緩和措置も取られた。一方、人々の移動の増加や新たな変異株の確認などから新規感染者数は再び増加し、行動自粛などの制限がかけられた。その後も、第二波、第三波と新規感染者数は増加と減少を繰り返している。

#### (2) 東村におけるコロナ禍の取組

東村では、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組として、村内施設の臨時休業及び時間短縮営業を行った。また、村内事業者への支援と村民への家計支援を行うことで、村内の経済回復を図ることを目的とした「東村消費喚起商品券」の発行や、中小企業などの売上確保に必要な経費を補助する「ちばりよー！東村中小企業等 チャレンジ補助金」をはじめとする各種補助金や給付金の交付を行った。

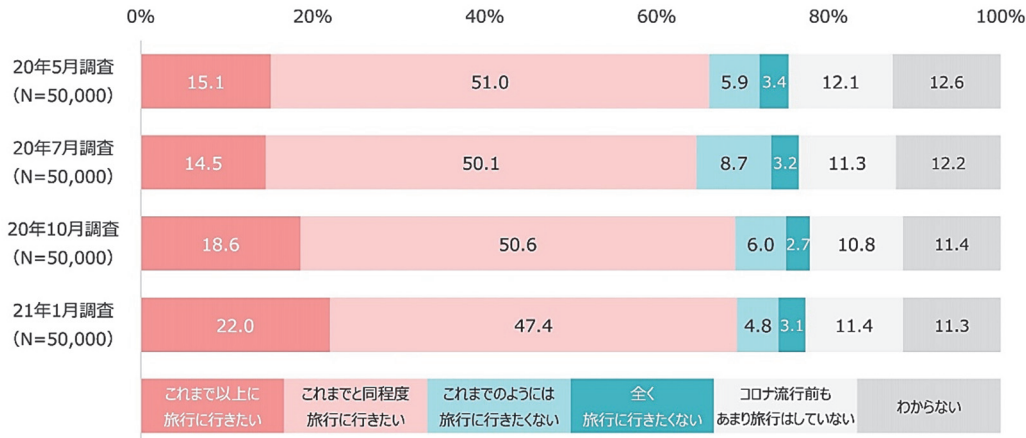
#### (3) コロナ禍における旅行スタイルの変化

コロナ禍のなか、滞在型観光、分散型観光、近場での修学旅行、オンラインツアーなどの新たな旅行スタイルが登場し、人々の観光に対する意識や旅行スタイルは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に大きく変化している。

『観光文化 第248号（日本交通公社）』では、注目を集めている「密を回避しながら楽しめる旅行スタイルやレジャー」として、キャンプやトレッキングなどの野外レクリエーション、グランピング、分散型ホテル、オンラインツアー・体験、ワーケーション、ホテルステイを取り上げており、コロナ禍での旅行トレンドをうかがうことができる。

「JTBF 旅行意識調査結果」によると、新型コロナ収束後の旅行意向について、令和3年1月は「これまで以上に旅行に行きたい」が2割越えとなり、新型コロナ流行当初の昨年と比べて旅行意向が高まってきているといえる。

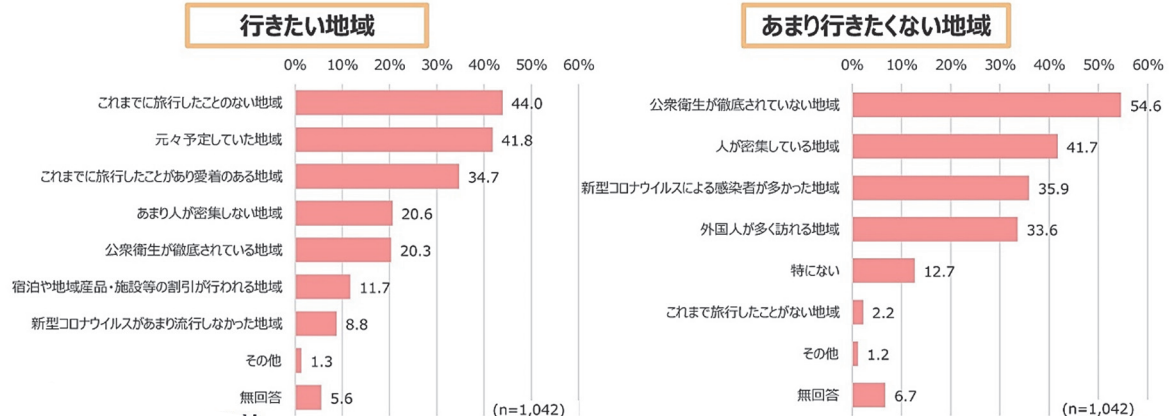
**Q. 新型コロナウイルスが収束したら、旅行に行きたいですか。**



また、あまり行きたくない地域として4割以上の人が「公衆衛生が徹底されていない」や「人が密集している」を挙げていることから、これらの対策がコロナ禍の旅行において必要条件として捉えられていることも明らかになった。

**Q. 新型コロナウイルスの流行が収束した後、どのような地域に行きたい/あまり行きたくないと思いますか。**

(新型コロナ収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)【複数回答】

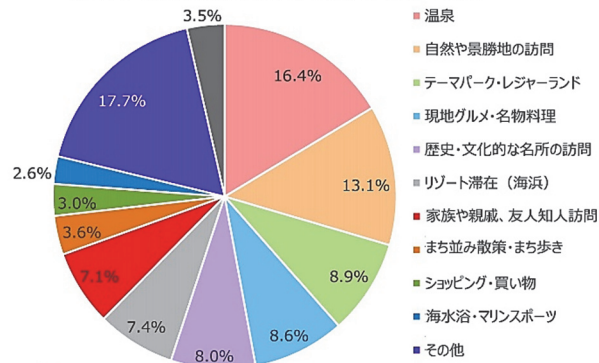


※調査期間:2020年5月20日～6月5日

コロナ収束後の旅行先で最も行きたいと思う活動については、「自然や景勝地の訪問」が13.1%と2番目に多くっており、また、その活動のために訪れたい場所として沖縄県が2位となっていることから、自然資源が豊かな東村への観光客来訪には期待が持てるといえる。

**Q. 新型コロナウイルスの流行が収束したら旅行先で最も行きたいと思う活動を選んでください。**

(新型コロナ収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)【単一回答】



※調査期間:2020年5月20日～6月5日

**Q. 新型コロナウイルス収束後、旅行先で最も行きたい活動のために、訪れたい場所はどこですか。**  
 (新型コロナ収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)【自由記述】

自然や景勝地の訪問 (n=137)			リゾート滞在(海浜) (n=77)		
1位	北海道	24.1%	1位	沖縄県	40.3%
2位	沖縄県	16.8%	2位	ハワイ	32.5%
3位	静岡県	3.6%	3位	静岡県	5.2%
まち並み散策・まち歩き (n=38)			海水浴・マリンスポーツ (n=27)		
1位	石川県	10.5%	1位	沖縄県	55.6%
2位	沖縄県	5.3%	2位	ハワイ、パラオ共和国	7.4%
3位	京都府、英国など多数	2.6%			

※調査期間:2020年5月20日~6月5日

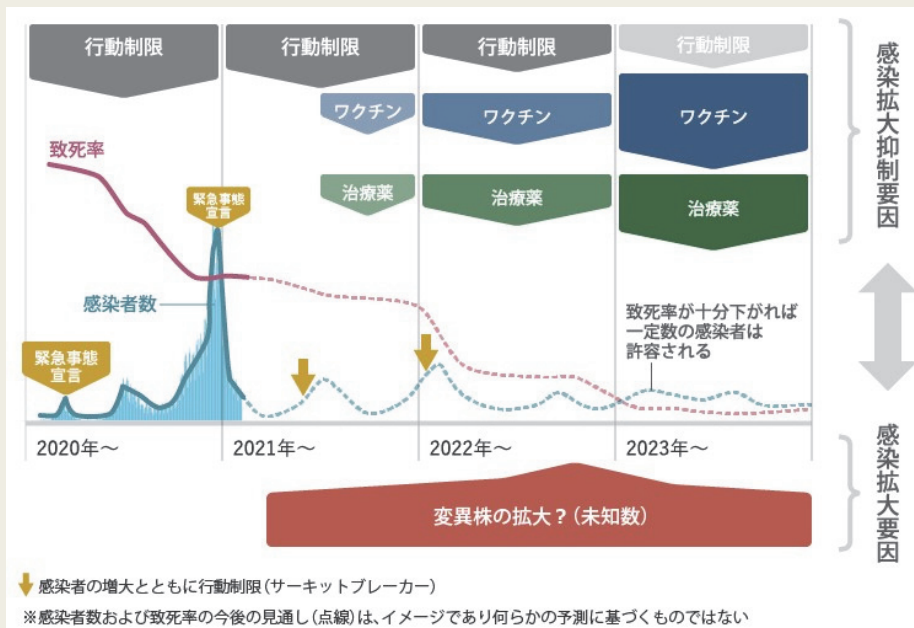
出典:「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向(その4)(その5)(その10)」日本交通公社

**コラム**

**日本におけるコロナ禍収束に向けての道筋**

新型コロナウイルス感染症のワクチンが開発され、日本でも接種が始まっているが、コロナ禍の収束はまだまだ見通せない状況にあり、今後も流行と制限が繰り返されると思われる。三菱総合研究所が感染症や公衆衛生等の専門家の意見を集約し、設定した収束シナリオによると、前提として収束条件には2つの視点があるという。一つ目は、行動制限がある程度解除されても感染が広がらないことが求められる「感染拡大防止」であり、ワクチン接種が重要となる。二つ目は、感染しても感染者の死亡率がそれほど高くないレベル(インフルエンザ程度)の「致死率の低下」であり、これにはワクチン接種と治療薬の開発が重要である。

COVID-19 収束のイメージ



出典:「新型コロナ(covid-19)収束シナリオ 第1回:見えてきたニューノーマル(新常態)への道筋」三菱総合研究所コラム(2021.3.22)

## 5-2. コロナ禍の観光振興の考え方

### (1) with コロナの考え方

新型コロナウイルス感染症による影響は、あと数年間続くことが想定される。そのため、計画期間である令和4年から令和8年の5年間のうち、初めの2年間はwithコロナ期間と想定して観光振興の方向性を設定する。

なお、本計画における「withコロナ期間」とは、移動や日常生活での制約や制限が一時的ではなく完全に解除されるまでの期間とする。感染者の致死率が下がり、規制の撤廃後も感染者数が増加することがなくなり、風邪やインフルエンザと同様の位置づけになるまでの期間ということもできる。

#### 計画年度



### (2) with コロナにおける沖縄県の観光振興の考え方

沖縄県では、経済面での影響に迅速に対応すべく、令和2年2月17日に「新型コロナウイルス感染症の影響等に係る緊急経済対策プロジェクトチーム(PT)」を設置し、5月28日に「新型コロナウイルス対策に係る沖縄県の経済対策基本方針(改訂版)」を策定し、経済対策の基本方針として、「安全・安心の島沖縄」「経済の礎を築く取組」「将来を先取りした経済の礎を築く取組の視点」の3つを示している。県の方針をふまえて、withコロナにおける本村の観光振興を検討する必要がある。

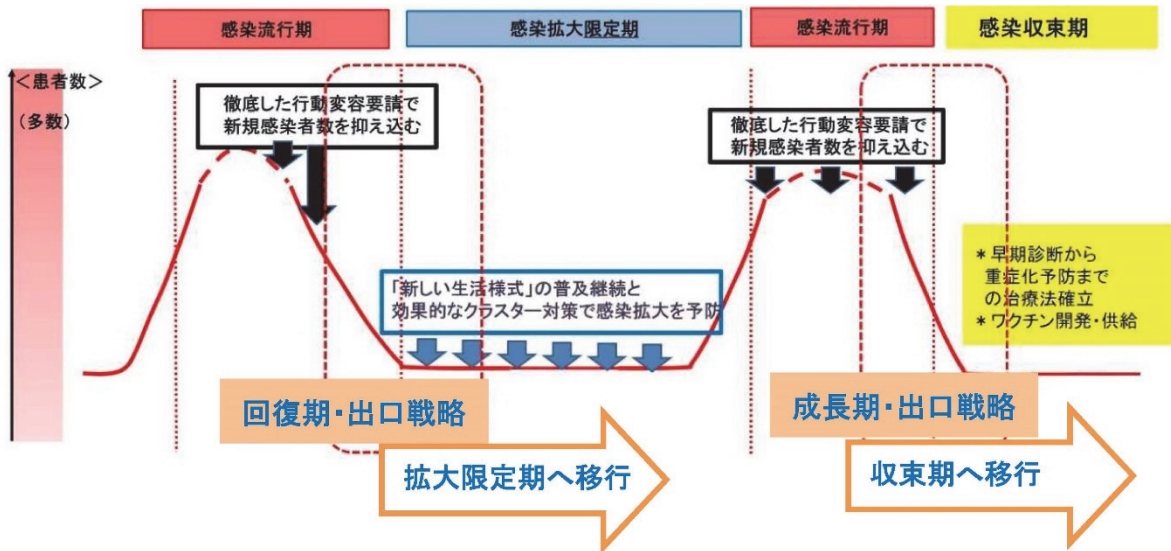
県の方針では観光関連産業における取組としては、以下のことが示されている。

#### 回復期・成長期における出口戦略

	期間の考え方	出口戦略
回復期	感染再拡大のリスクが想定される「感染拡大限定期」に向けた経済活動の回復を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>国のGO TOキャンペーンの活用による国内需要の沖縄への引き込み</li> <li>インバウンドの段階的な誘客プロモーションの展開</li> </ul>
成長期	ワクチン接種が行き渡り、致死率が下がった「感染終息期」に向けた経済成長をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄の自然、歴史、文化に内在している能力を土台に、沖縄観光の構造を量から質に転換していく</li> </ul>



## 感染状況の推移と期間の定義



## 観光関連産業における取組

短期的な取組	中長期的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光需要の回復はまず、地元を向け、県民による地域の再発見のマイクロツーリズムから始める。</li> <li>国内需要の回復に向けて、「安全・安心の島沖縄」の情報発信及び誘客プロモーションを展開する。</li> <li>修学旅行が実施できる環境の整備・発信等を行う。</li> <li>地域資源をいかした観光資源の開発に取り組む。</li> <li>離島を含めた沖縄型ワーケーションの確立に取り組む。</li> <li>観光客が満足する質の高いサービスの提供に取り組む。</li> <li>学生等も含めた人材育成・確保に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の動向を見極めつつ、県外への誘客プロモーション強化、インバウンドの誘致を展開していく。</li> <li>旅行社の行動様式の変化や、観光地間の競争激化が予想されるため、安全・安心を前提とした、文化、スポーツ、自然、健康長寿等のソフトパワーをいかした、ブランド力の強化を図る。</li> <li>安全・安心、健康・長寿、快適・環境を基にした「安全・快適な島」を実現する。</li> <li>SDGs の理念にマッチした観光でブランド力を向上し、持続発展へとつなげる。</li> </ul>

出典:「新型コロナウイルス対策に係る沖縄県の経済対策基本方針(改定版)」、沖縄県新型コロナウイルス感染症の影響等に係る緊急経済対策本部(令和2年11月9日)

## 5-3. with コロナにおける東村の観光振興のあり方

人々の旅行スタイルが変化していくなかで、新型コロナウイルス感染症拡大収束までの間だけでなく、収束後の観光振興の展開も見据え、with コロナにおける東村観光の指針と方向性を設定する。

### 指針

## サステイナブルなやんばる観光の下ごしらえ —with コロナで土台を固め、after コロナで責任ある受入を—

### 方向性

#### □ 受入再開に向けた体制づくり

観光需要の回復に向けて、まずは沖縄県民を対象にした取組を進める。県外客の受入が再開した際に有効な観光振興を推進するために、県内客をモデルケースとして、需要の分析やターゲットの検証、新たな観光資源の掘り起こしなどに取り組む。また、村民の観光への関心向上や観光人材育成の一環として、村内の子どもたちを対象とした観光プログラム体験イベントの取組拡大をめざす（例：つつじエコパークでは幼・小・中学生を対象に体験イベントを開催）。

また、やんばる世界自然遺産登録後の大勢の観光客の来村によって、オーバーツーリズムの深刻化や、豊かな自然資源への影響が懸念される。コロナ禍で人の移動が制限された今のうちに、観光客の適正コントロール手法の確立や自然を第一にまもる意識醸成を進め、レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）の考え方を村内に定着させる。

インバウンド受入に関しては、after コロナに向けて必要に応じた設備投資、利便性向上等を進めるが、AI やビッグデータなどデジタル技術の発展で解消される課題（通訳アプリなど）も見通されている。このため、外部人材の協力を得ながら with コロナの期間にこれらの最新 IT 情報をキャッチアップし、今後のインバウンド対応策を協議する。

沖縄県は、事業者が実施する感染防止対策について認証する制度を設けているが、このような既存制度の活用または独自の認証をつくるなどして、after コロナの受入再開に向けた安全・安心な体制づくりを進める（新潟県妙高市では感染症対策の「妙高モデル」（接触確認アプリの村民・観光客への普及、観光従事者の定期検査等）を構築しており、参考にする）。また、来村する観光客には、感染症対策に関する自身の意識や行動に一定の責任を持ってもらえるような意識啓発を図る。

#### □ 高付加価値化の推進（量から質への目標転換）

with コロナにおいて大勢の観光客の呼び込みができないことをふまえて、「量から質の観光」への転換をこの期間に先取りする。with コロナの期間に設定している2年間で、「世界自然遺産」となったやんばるの森での自然体験プログラムや、「健康長寿」と結びつくような食材を使用した長寿弁当のような、既存の商品に東村のソフトパワーをいかした価値を付け加える高付加価値コンテンツの磨き上げに取り組む。

また、3密回避の意識から、ホテルステイなどの移動を最小限に抑えた旅行スタイルの需要が高まっているこの機会に、村内で旅行を完結できるようなプログラムやサービスの連携を、関係事業者・団体と連携

して取り組んでいく。例えば、移動を最小限にとどめ、時間にしばられずにゆったりとした観光プランや村内を周遊するプログラムを構築する。

このような観光戦略の転換を推進するためには、専門知識や国の制度への精通、関係者をつなぐネットワーク力などが求められる。本村に不足するこれらのスキルは外部人材に求めることが有効であり、コロナで苦境にある大手旅行会社が社員を在籍出向させる「雇用シェア」や、地域おこし協力隊の制度を用いて、本村の観光関連機関で一定期間受け入れるように環境整備を図る。

## コラム

### 観光業界がコロナ対策で取り組むべきこととは??

「旅行者の安全・安心アクションプラン 沖縄 Tour Style with コロナ(令和3年3月改訂)」では、観光関連事業者等が取り組むべき感染予防・拡大防止対策の全旅程共通の取組として、以下のものを挙げている。

①基本的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従業員の・手洗い・消毒・マスク着用、健康管理</li> <li>○ 従業員の業務中の発熱や体調不良を認めた場合の業務停止等の徹底</li> <li>○ 旅行者へのマスク着用の促進</li> <li>○ 予防対策実施チェックリストの作成・運用</li> <li>○ イラスト・多言語での注意喚起 など</li> </ul>
②3密の防止対策(密接・密集・密閉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順のオンライン化、システムのデジタル化の推進</li> <li>○ 人数コントロールの実施</li> <li>○ 混雑状況の提供と利用時間の分散化</li> <li>○ 休憩時間の分散</li> <li>○ エレベーターの重量センサー調整 (少ない人数でのプザー発動)</li> <li>○ 関係者以外の立入禁止 など</li> </ul>
③対人距離の確保(接触・飛沫感染対策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動線・空間デザインの整備</li> <li>○ ソーシャルディスタンスの確保</li> <li>○ キャッシュレス化の促進及び金銭授受時のトレイの活用促進</li> <li>○ 業務範囲・フローに応じたゾーニング</li> <li>○ 飛沫感染防止パネル・カーテンの設置</li> <li>○ 客対応の時に正面に立たない など</li> </ul>
④喚起対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ こまめな換気</li> <li>○ 休憩施設の換気 など</li> </ul>
⑤施設・設備・物品の消毒対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消毒・除菌の徹底(高頻度接触箇所の洗い出し)</li> <li>○ 車いすなど貸出物の十分な消毒 など</li> </ul>

出典:「旅行者の安全・安心アクションプラン沖縄 Tour Style With コロナ(令和3年3月改訂)」、新型コロナウイルスに負けない安全・安心な観光地づくりに関する対策会議